

北海道浮魚ニュース

平成13(2001)年度 23号 (通巻 No.116)

2001年10月10日

北海道立中央水産試験場	Tel : 0135-23-8707	Fax : 0135-23-8709
釧路水産試験場	Tel : 0154-23-6221	Fax : 0154-23-6225
函館水産試験場	Tel : 0138-57-5998	Fax : 0138-57-5991
稚内水産試験場	Tel : 0162-32-7177	Fax : 0162-32-7171
網走水産試験場	Tel : 0152-43-4591	Fax : 0152-43-4593

平成13年度北西太平洋サンマ長期漁況海況予報(漁期後半の見通し)

10月9日に「平成13年度北西太平洋サンマ長期漁況海況予報(漁期後半の見通し)」が発表されましたので、お知らせします。なお、水産総合研究センター東北区水産研究所のホームページに、より詳細な予報文が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

水産総合研究センター東北区水産研究所 URL : <http://www.myg.affrc.go.jp>

【漁況の見通し】

(予測期間:2001年10~12月 予測海域:道東~三陸~常磐海域 予測漁業:さんま棒受網漁業)

- (1)来遊量：前年を上回る
- (2)漁期・漁場：三陸沿岸で安定した漁場が形成される。常磐への南下は遅れる。
- (3)魚体：当初は大型魚・中型魚が多いが、急速に小型魚の割合が高まる。

[解説]

(1)来遊量予測について

9月末までの累積漁獲量は約13万7千トンで、これを過去4年の同期と比較すると、資源水準の低かった1998・1999年を大きく上回り、資源水準が中程度であった2000年漁期も上回って、近年では資源水準が高かった1997年とほぼ同水準となっていた。また、CPUEも漁期当初から過去3年間(1998-2000年)を大きく上回って1997年とほぼ同水準で推移している。

6・7月に行なわれた漁期前調査では沖合に大量の魚群の分布が認められていること、及び漁期前半における調査船の試験漁獲結果が比較的良好なことから、漁場外にもかなりの資源が存在すると考えられた。従って、2000年漁期を上回る来遊量があると判断した。

(2)漁場の予測について

津軽海峡の東側には津軽暖流の張り出しがあるが、この先端に小型の暖水塊(鮫角沖暖水塊)があり、津軽暖流の張り出しと暖水塊が接合して鮫角の沖合に広い暖水域を作っていた。このため、襟裳岬南方まで南下してきたサンマはこの暖水域に一時的に南下を阻まれているものと見られる。

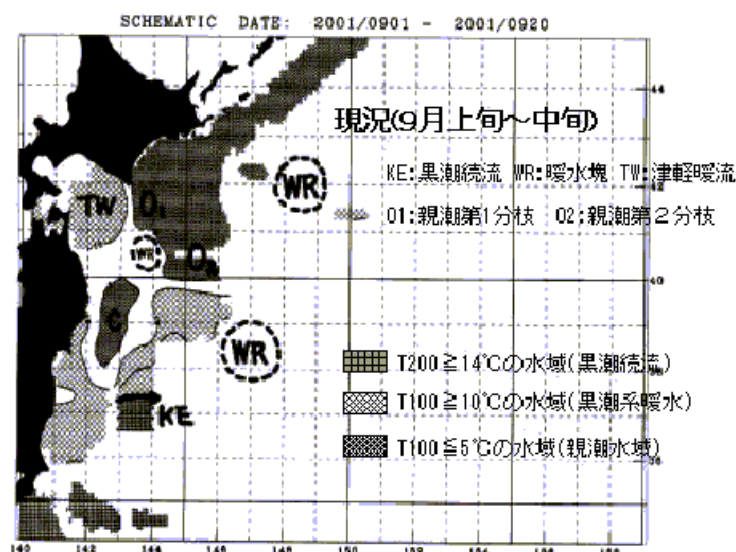
しかしながら、この暖水域はしだいに解消されると予想されているので、サンマは、例年と同様に三陸近海の冷水域に南下するものと判断される。黒潮系暖水は例年より三陸南部に広く張り出すと予想されていることから、三陸沿岸には東西に顕著な潮境が形成され、安定した漁場が形成される可能性が高いと判断した。また、常磐海域は黒潮系暖水で占められることから、この海域へのサンマの南下は遅れるものと考えられた。

(3)魚体の予測について

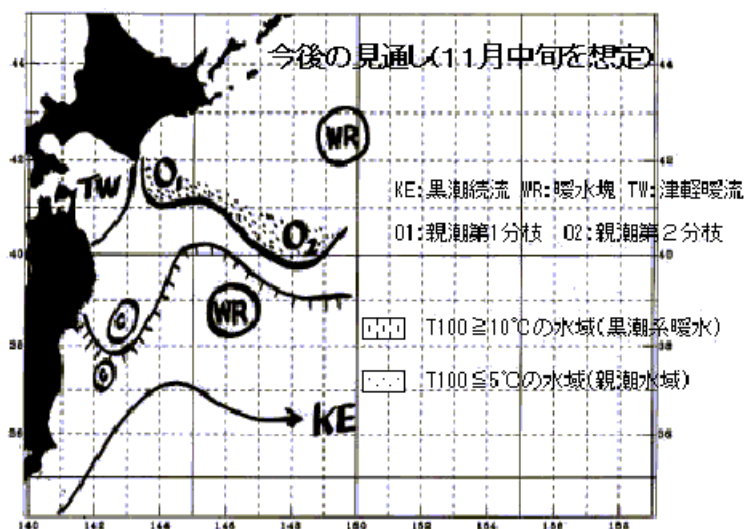
漁期前調査の結果によれば、大型魚・中型魚の次に南下すると考えられる小型魚の資源量が大きいことが分かっており、現在のところ、これを強く否定するような情報は得られていない。したがって、今後は小型魚の比率が高くなっていくものと判断された。

【海況の見通し】(予測期間:2001年10~12月)

- (1) 近海の黒潮の北限位置は、平年並からやや北偏 ($37^{\circ}\text{N} \sim 37^{\circ}30'\text{N}$) で推移する。
- (2) 黒潮系暖水の北への張り出しは、沖合を中心に平年より北寄りに推移する。
近海では、 40°N を越える。
沖合では、 150°E 以東で 41°N を越える。
- (3) 色丹島沖の暖水塊は、北東へ移動する。
鮫角沖の暖水塊は勢力を弱め消滅する。
金華山沖合の暖水塊は、北西へ移動する。
- (4) 親潮第1分枝の張り出しは、平年並 (41°N 付近まで) で推移する。
親潮第2分枝の張り出しは、平年並 (40°N 付近まで) で推移する。
三陸南部から常磐近海は、冷水域の影響を受ける。
- (5) 津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、平年並 (143°E 付近) である。



海況の現況 (9 月上旬 ~ 中旬)



海況の今後の見通し (11 月中旬を想定)

(文責 : 釧路水試 資源管理部 直通電話 : 0154-23-6222)